

カラジュームの育て方

カラジュームはサトイモ科の植物で、南米に約15種類が自生しています。この仲間は球根を持ち、冬は休眠しますが、休眠中でも低温は嫌います。したがって、球根の保管場所の温度には注意しなければなりません。しかし、それさえ気をつけていればとても越冬の容易な植物です。また、多くの観葉植物と違い、強い日差しを好みます。

年間管理

管理月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
温度と置き場所	室内の暖かい場所 (最低10°C以上)				直射日光の当たる戸外				室内の暖かい場所 (最低10°C以上)			
水やり	与えない				表面が乾いたら				毎日		表面が乾いたら 与えない	
施肥	月2～3回の液肥か1～2カ月に1回置肥											
植え替え繁殖	芽出し 植え替え 分球											

水やり

春と秋は鉢土の表面が乾いたら与え、夏は天候が良ければ毎日与えます。晩秋になり、葉が黄色になるにつれ水やりを徐々に控えます。地上部が枯れれば、完全に水を切り休眠させます。

肥料

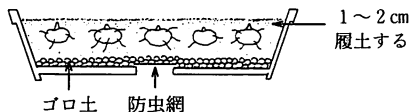
葉が展開し始める5月頃から葉が黄色くなる9月頃まで2～3回液肥を与えるか、1～2カ月に1回油粕等の置肥を与えます。

病害虫

乾燥期にハダニが発生し易いので、灌水の時は水を葉裏にもかけ、予防に努めます。発生した場合には、ダニ専用の殺虫剤を散布して防除します。また、用土が過湿になると軟腐病になることがありますので、過湿にならないように注意します。

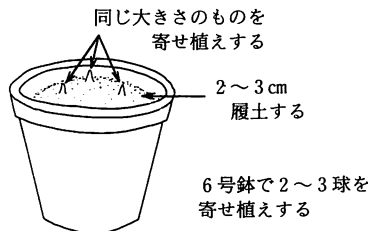
手入れ

生育初期の段階で花が上がってくるのがよくあります。カラジュームの花は観賞価値がほとんど無いため、葉の生育を促すために早めに摘み取ります。葉が弱ってくる秋には葉が倒れる事がしばしばあります。その場合には葉を切り取らずに、球根を少しでも肥大させるために、支柱を立ててできるだけ長期間、葉をつけておきます。



4月下旬頃、球根を掘り上げる。大きい球根は分球して殖やせる。その時には、腐敗防止のため、切り口に殺菌剤を塗る。

芽出し



排水の良い新しい用土(例:赤玉土7、腐葉土3)に大ききのそろった球根を植えて、管理すると姿の良い鉢ものになる。

定植